

令和2年度

安曇野市 協働事業事例集

令和3年3月

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・高度化し、これまでの行政が中心に担ってきた公共サービスでは対応できない問題が山積しています。また、地方分権が進展し、市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる安曇野市の地域づくりを進めていくためには、市民やNPOなどの市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、安曇野市では、平成31年3月に「第2次 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」を策定し、これに基づき、協働を進めるための仕組みづくりに努めており、庁内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

この協働事業事例集では、令和2年度に各部局で協働事業として実施された事業を収集し、掲載しています。「協働」は目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成しました。

2 収集の対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）


（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会
NPO、消防団、PTA、農業協同組合等

令和2年度に実施した個別協働事業一覧(全 14 事業)

番号	事業名	協働の相手方	事業担当課
1	安曇野市自転車での健康づくり実証実験 サイクリングで健康チャレンジ事業	松本大学	政策部 政策経営課
2	育メン・家事メン・フォトコンテスト 同時開催 男女共同参画展	男女共同参画推進会議	総務部 人権男女共同参画課
3	女性に対する暴力をなくす運動	男女共同参画推進会議	
4	日本語 de スピーチ大会	あづみの国際化ネットワーク	
5	多文化共生意見交換会	あづみの国際化ネットワーク	
6	安曇野・日本語交流員スキルアップ講座	あづみの国際化ネットワーク	
7	アルプス花街道	アルプス花街道実行委員会	
8	光城山 1000 人SAKURA プロジェクト	光城山 1000 人SAKURA プロジェクト	
9	災害時住民支え合いマップ作成研修	社会福祉法人 安曇野市社会福祉協議会	福祉部 長寿社会課
10	安曇野やさいスイーツプロジェクト	安曇野やさいスイーツプロジェクト	商工観光部 観光交流促進課
11	安曇野花火 ※新型コロナウイルスの影響で内容変更	安曇野花火実行委員会	
12	花と緑あふれるまちづくり事業	Garden Farm Life of Azumino	都市建設部 都市建設課
13	安曇野市ミュージアム活性化事業	安曇野市ミュージアム活性化事業実 行委員会	教育部 文化課
14	安曇野文化刊行事業	安曇野文化編集委員会	

事業概要紹介シート①

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市自転車での健康づくり実証実験サイクリングで健康チャレンジ事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他()	
実施団体	相手側	学校法人松商学園 松本大学	
	市側	政策部 政策経営課 企画担当(担当)	

運動指導の様子

【事業の概要】


取組の背景・課題	市では自転車を活用したまちづくりを推進している。自転車に関する様々な取り組みの中の1つとして、自転車での健康づくり実証実験2年目を行った。地域貢献を理念とし、教育研究を通じた地域社会への貢献を目的としている松本大学と連携協定を結び、地域との連携の実践として取り組んだ。		
事業の目的	自転車を日常生活で活用することで、健康増進につながるか、健康づくりのためにはどのような自転車の乗り方が効果的なのか検証する。1年目の実証実験結果では多くの参加者に降圧効果や脚筋力の増加、柔軟性の向上などの効果があらわれたことから、2年目は参加者を10名増やし検証結果をより確かなものにする。		
成果目標	自転車による健康効果の検証		
実施場所	堀金総合体育館外	事業期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日
事業の概要	希望する市民を公募し、自転車を日常生活の足として活用することにより、健康増進に寄与するのか、3年間の実証実験を行うもの。本年度は事業2年目。参加者にはGPS機能付活動量計を貸与し、通勤や買い物など日常生活で積極的に自転車に乗っていただき活動量を測定する。検証期間中は活動量計のデータを基に運動指導や栄養指導、自転車の専門家による自転車指導を月1回開催する。初回と最終回の教室で体力測定を行い、健康効果を検証する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	実証実験教室の開催
	相手側	実証実験教室の運営、実験結果の検証
	市側	事務(運営補助、参加者への事務連絡等)

事業概要紹介シート②

【事業の名称等】

事業の名称		育メン・家事メンフォトコンテスト 同時開催 男女共同参画展	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 ④. その他（協賛）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

フォトコンテスト展示会場

【事業の概要】

取組の背景・課題	育児や家事が女性の仕事だという性別による役割分担意識があり、こうした分野への男性の参画がなかなか進んでいない		
事業の目的	性別による役割分担意識を払拭するきっかけづくり 現役世代への男女共同参画に対する意識づけ		
成果目標	身近な男女共同参画に目を向けてもらう		
実施場所	本庁舎 1F 東口ビー	事業期間	令和2年6月19日～7月3日
事業の概要	市民の男女共同参画への意識を高めてもらうため、男女共同参画週間に合わせてパネル展を行う。今年は男性の家事・育児参画に焦点を合わせたフォトコンテストも同時に開催。コンテストへの応募や、展示した応募写真を見ることで男性の家庭進出を促す。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	審査
	相手側	表彰、記念品提供
	市側	事前準備、募集、掲示等の事務

【実施結果】

成果目標の達成状況	男女共同参画が身近なものだという気付きの機会になった
協働による効果	協賛団体にとっても、普段接しない現役世代の考え等を知ってもらう機会となった
課題・改善点	より多くの市民に訴えかけられる事業にしていくための工夫が必要

事業概要紹介シート③

【事業の名称等】

事業の名称		女性に対する暴力をなくす運動	
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

豊科公民館のパープルライトアップ

【事業の概要】

取組の背景・課題	内閣府は令和2年度から令和4年度の3年間を性犯罪・性暴力対策の集中強化期間とした。そこで、安曇野市でも11月の「女性に対する暴力をなくす運動」に合わせ、暴力防止について啓発する。		
事業の目的	市民に対して性犯罪・性暴力防止の啓発や、女性に対する暴力をなくす運動の周知を促す。		
成果目標	市民の性犯罪・性暴力防止に対する意識を高める		
実施場所	豊科公民館（企業人権講演会会場） 本庁舎 1F西ロビー 中央図書館内	事業期間	令和2年11月10日 令和2年11月12日～11月25日
事業の概要	女性に対する暴力防止に関するパネルやポスターなどの掲示、メッセージツリーの展示等により、性犯罪・性暴力防止の啓発や「女性に対する暴力をなくす運動」の周知を図る。またイベントとして11/10に豊科公民館でパープルライトアップとパネル展示、市役所本庁舎でパープルライトアップを行い、11/12～25の期間中は、中央図書館にて関連図書とともにパネルや啓発ポスターなども併せて展示する。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	パープルライトアップ及びパネル展の準備、片付け
	相手側	周知、支部活動（パープルライトアップ、ポスター掲示等）
	市側	事務（事前準備、備品の用意、広報等）

【実施結果】

成果目標の達成状況	「女性に対する暴力をなくす運動」の認知度が高まった
協働による効果	展示等が円滑行うことができ、運動についても知識を深めることができた
課題・改善点	事業改善のため、計画などをより具体化し、積極的に情報共有を図る

事業概要紹介シート④

【事業の名称等】

事業の名称		2020 “世界にやさしい安曇野へ” 日本語 de スピーチ大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

（説明）スピーチをした方を表彰

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、約 1,300 人の外国籍住民が暮らしている。同じ市民として理解しあうために、外国籍住民の思いを日本語でスピーチしていただき、地域で暮らす外国籍住民への理解を深めるため実施する。		
事業の目的	外国籍住民への理解を促進する。		
成果目標	発表者が日本語で意見を述べるとともに、市民に意見が伝わる。		
実施場所	市役所 307 会議室	事業期間	令和 2 年 8 月 2 日～
事業の概要	外国籍住民 13 名が、安曇野で暮らして思ったこと等を意見発表していただく（当日は、一般市民の入場はなく、後日、安曇野 FM にて放送）		

【協働の役割分担】

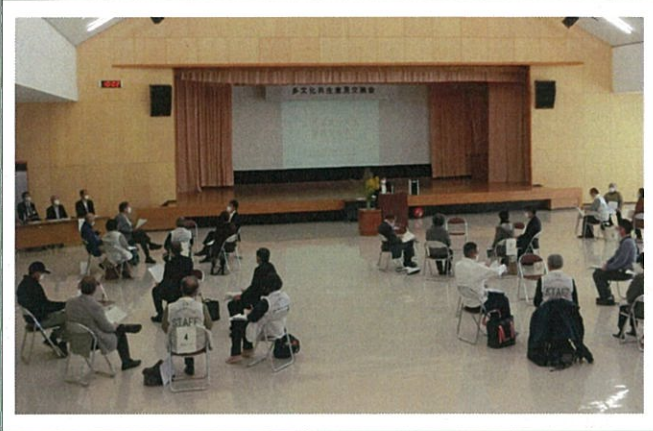
役割分担	一緒の取組	広報（チラシの設置、配布による）
	相手側	発表者の募集、意見文の作成支援
	市側	会場準備、資料準備

【実施結果】

成果目標の達成状況	多様な国籍の住民への理解を深める機会となった。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。特に市広報誌、ホームページにて参加者募集を行い、外国籍住民の発表者の確保に繋がった。
課題・改善点	多文化共生について関心が低い層に対し、理解を促進する必要がある。

事業概要紹介シート⑤

【事業の名称等】

事業の名称		多文化共生意見交換会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施 団体	相手 側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

（説明）グループ別意見交換会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	当初は、「あづみの国際 DAY2020」を開催予定でしたが、コロナ感染予防のため、多文化共生に理解のある企業、団体、地域の代表者を招待し、情報提供・意見交換の事業を開催することとなった。		
事業の目的	それぞれ多文化共生に理解のある立場の方々と、外国籍住民が意見交換や情報共有することで相互理解を深め、多文化共生活動の更なる推進を図る。		
成果目標	今後の外国籍住民の支援活動の継続、安心・安全な地域づくりに資すること。		
実施場所	穂高公民館講堂	事業期間	令和2年10月25日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・あづみの国際化ネットワークの活動紹介 ・日本語 de スピーチ大会 ビデオ鑑賞 ・グループ別意見交換会 		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒の取組	イベント内容検討、チラシ原稿作成、会場準備、片付け
	相手側	イベント運営、進行
	市側	チラシ印刷、会場確保、出席者とりまとめ、看板等作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	多様な外国籍の住民と理解を深め、多文化共生を更に進める機会となった。
協働による効果	主体的な役割分担により事業を効果的に実施することができた。特に外国人住民支援団体の選考について、市の情報を活用した。
課題・改善点	継続的な実施を検討したい

事業概要紹介シート⑥

【事業の名称等】

事業の名称		多文化共生ボランティア「安曇野・日本語 交流員」スキルアップ講座	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみの国際化ネットワーク	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生係（担当）	

（説明）講座の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野市には、県下で6番目に多い約1300人の外国籍住民が暮らしている。外国籍住民が地域に溶け込み、役割を発揮できるよう、支援活動の充実が求められている。これらを実現するため、市内で多文化共生活動や外国籍市民への日本語ボランティアに取り組んでいる市民のスキルアップが必要である。		
事業の目的	外国人にも日本人にも暮らしやすい社会づくりにつながる。外国籍住民の支援を図る。		
成果目標	多文化共生に関する理解、知識の向上を図り、外国籍住民と時間や体験を共有しながら、言葉や生活に慣れる支援を行う。		
実施場所	市役所4階 大会議室	事業期間	令和2年12月6日～12月20日
事業の概要	多文化共生活動に関心があり、安曇野市で活動できる方を対象とした年3回のスキルアップ講座の開催。		

【協働の役割分担】


役割 分担	一緒に取組	イベントの企画、会場の準備・片付け
	相手側	講座講師への講演依頼、講座資料の作成、広報チラシの作成
	市側	市民への広報、会場の確保、講座資料の印刷、補助金の支払い

【実施結果】

成果目標の達成状況	コロナ禍においても感染症対策を十分図り、1回15名、2回13名、3回12名受講することができた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。特に受講者の募集に当たっては、市広報誌、HPで周知が図られた。
課題・改善点	今後も新規で多文化共生ボランティア活動をしたい人の養成講座が開催されれば、外国籍住民支援者の拡大になる。

事業概要紹介シート ⑦

【事業の名称等】

事業の名称		アルプス花街道事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会		
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係		

マリーゴールドの生育状況等の巡視

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野五輪を機に高まった。潤いのある地域づくりに向けて、市民と行政と一緒に汗を流し、協働によるまちづくりが必要とされている。		
事業の目的	安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、自然と人にやさしいまちづくりを推進するため、住民の創意工夫による美しい景観の形成を目指す。		
成果目標	マリーゴールドの植栽及び除草等の管理により沿道の景観美化を維持する		
実施場所	市内9か所の沿道（県道柏矢町田沢停車場線ほか）及び市老人クラブ連合会活動区画	事業期間	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日
事業の概要	市内9か所の沿道等でマリーゴールドの植栽及び除草等の管理を行い、景観形成に努める。毎年参加を希望する個人・団体により実行委員会を構成し、それぞれ担当区画を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理を行う。一部の区画では、県、団体、市の三者でアダプトシステム協定を締結し、実施している。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	マリーゴールドの植栽等沿道管理
	相手側	実行委員会の運営、事務局
	市側	委託料の支払、参加団体の取りまとめ、広報、事務局の補佐等

【実施結果】

成果目標の達成状況	70団体（1,164名）の参加により、沿道の景観美化に努めることができた。
協働による効果	市民と行政が目的を共有し、多くの団体等の主体的な参加により安曇野市の景観形成に取り組むことができた。
課題・改善点	高齢化等により担い手が減少しており、新たな担い手の発掘が課題となる。

事業概要紹介シート⑧

【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係	

市民参加による本年度の植栽事業

【事業の概要】

取組の背景・課題	桜の名所として知られる光城山では、桜の老木化が進んでおり、通称「昇り龍」を後世に残すこと、また、周辺自然環境の保全、地域の歴史文化の伝承等が課題となっている。これらの課題解決のため、市民と行政が協働により取り組む必要性があった。		
事業の目的	光城山の課題解決を図るとともに、プロジェクトの取り組みが協働のモデルとなり、協働による課題解決の仕組みを広めること、もって安曇野市の一体感の醸成に寄与することを目的とする。		
成果目標	光城山山頂付近に桜の苗木 20 本を植栽。		
実施場所	光城山 他	事業期間	令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月
事業の概要	・平成 27 年度に植栽したが育成不良になってしまった桜の補植。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	事業計画の検討、各事業準備作業、各事業運営
	相手側	鹿対策防護柵の作成、桜の生育管理、各団体のとりまとめ など
	市側	予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、各事業参加者のとりまとめ、広報 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	植栽はプロジェクトメンバーとサポーターの計 20 人と事務局の市が参加。
協働による効果	双方の主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	植栽に向けた準備作業の資材運びは、事務局の地域づくり課とプロジェクトの会長、副会長のみで行った。これまでの大規模植栽から本数の少ない補植になったため、人手があまり必要ないという判断だったが、協働の観点から準備作業から多くの市民が関わることが望ましい。歴史・文化と動植物の分科会は専門講師の不足などを理由に活動が停滞気味になっている。

事業概要紹介シート⑨

【事業の名称等】

事業の名称		「災害時住民支え合いマップ」に関する研修会	
協働の形態		①. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市社会福祉協議会	
	市側	福祉部 長寿社会課 福祉政策担当	

ささえあいマップ研修会風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	阪神淡路大震災、新潟中越地方の豪雨、地震の被害を受けて、内閣府では大都市だけでなく地方でも災害時の助け合いができなくなっているという判断された。		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分の住む地区で、住民全てが安全に避難するための情報を掲載する。 ・地域の状況や問題点を知り、日ごろからの地域の繋がりや支え合いを再認識するきっかけを作る。 		
成果目標	全ての区で毎年度更新ができること		
実施場所	各地域又は各区	事業期間	4/1～3/31
事業の概要	災害時にいつ、誰が、どのように安否確認、避難行動の支援等をするのかを考えるため、住民による話し合いを元に書き込んだ地図を作成する。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	研修会の開催（主催、共催）
	相手側	関係者への通知・研修会主催・社協会費を財源とした特別活動配分金の受付及び交付
	市側	研修共催、参加・作成相談・マップコピー・作成、更新届出窓口

【実施結果】

成果目標の達成状況	取り組み状況は、毎年度末に把握する。
協働による効果	社協にはアドバイザーや専門職がいるので実務に直結でき、市は取り組みの補佐的な役割を担い、互いに情報を共有して相談支援体制を作っている。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の役員等が毎年替わる区もあるため、次年度以降も「災害時住民支え合いマップ」の目的や手順等を丁寧に説明し、更新を継続的・定期的実施していく必要がある。 ・地区により作成されるマップに差異があるため、各地区の実情を把握している地区社協が相談等を受けながら区、自主防災組織が災害時に有効な避難行動がとれるようなマップ作成を支援する必要がある。

事業概要紹介シート⑩

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野やさいスイーツプロジェクト		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）		
実施団体	相手側	安曇野やさいスイーツプロジェクト		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当		

（説明）安曇野やさいスイーツ

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 22 年「安曇野ブランドデザイン会議」の事業として、やさいスイーツの取組がスタートし、会議が解散した後もメンバーが主体となり継続運営。観光振興、地域ブランドの創出を図る。		
事業の目的	安曇野発の新たな食の魅力の発信をすること		
成果目標	安曇野やさいスイーツフェアの実施		
実施場所	市内	事業期間	4/1～3/31
事業の概要	安曇野市内の菓子店やホテルでつくる「安曇野やさいスイーツプロジェクト」第 11 回となる令和 2 年度は 10 月 3 日～11 月 8 日の 1 カ間「安曇野産ブロッコリー」をテーマに開催。期間中はシールラリーも開催し、複数のお店を回った方へは、抽選でやさいスイーツ商品券をプレゼントする取り組みも行った。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動を通じて多くの方に安曇野やさいスイーツの魅力を発信できた
協働による効果	活動また事務作業の役割分担における効率化
課題・改善点	PR 活動の強化

事業概要紹介シート⑪

【事業の名称等】

事業の名称		悪疫退散安曇野花火		写真 
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野花火実行委員会		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進担当（担当）和田 浩昌		

（説明）悪疫退散の思いを込めた花火玉

【事業の概要】

取組の背景・課題	市内の経営者を中心に実行委員会を組織し毎年8月14日に開催している。コロナ禍で中止となったが、少しでも地域を元気にしたいとの思いから、コロナ終息と来年の安曇野花火開催を願い、サプライズ花火を企画した。		
事業の目的	コロナ禍でも少しでも地域を元気にし、来年の安曇野花火開催へつなげていく。		
成果目標	市内広範囲で見えていただき、実施後は SNS 等で観光 PR につなげる。		
実施場所	明科御宝田遊水池ほか	事業期間	令和2年8月14日（金）
事業の概要	3密を避けるため事前の周知は行わず、5分程度の花火を打ち上げる。数日前に市民向けに最低限の広報を行い、市内の広範囲で家や近所から見る事ができるよう市内3箇所で一斉に打ち上げる。		

【協働の役割分担】


役割分担	一緒の取組	運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	各部会による事業準備、運営。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	市内の広範囲で楽しんでいただくことができ、地元紙でも記事や投稿があった。フォロワー1万人以上の観光協会 SNS でも投稿やコメントが多数あり、観光 PR としても一定の効果があった。
協働による効果	実行委員会と市がそれぞれの役割を果たして事業を行った。
課題・改善点	コロナ禍での開催方式の一つとして一定の実績となったが、予算や人員の確保が課題。来年度も通常開催が困難な場合には、コロナ禍でも独自収入が確保できるよう運営方法を検討する必要がある。

事業概要紹介シート⑫

【事業の名称等】

事業の名称		花と緑あふれるまちづくり事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	Garden farm life of Azumino	
	市側	都市建設部 都市計画課 公園緑地係（担当）高尾 一成	

安曇野ゴラウンドガーデンで作業する、Garden farm life of Azumino の会員の皆さん

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 31 年 4 月から令和元年 6 月まで開催された『第 36 回全国都市緑化信州フェア』を契機に高揚した市民の緑化意識や、花と緑ある暮らしへの関心を維持するとともに、そうした暮らし方を発信する必要がある。		
事業の目的	市内の緑に親しむ暮らしぶりを紹介することを通じ、人びととの交流を促進し地域づくりの協働事業発展の契機とする。		
成果目標	市民と協働により、ガーデンファームライフガイドブックを発行、頒布する。安曇野ゴラウンドガーデンの管理を行う。		
実施場所	安曇野市役所 三郷文化公園内安曇野 ゴラウンドガーデン	事業期間	令和 2 年 4 月 1 日 ～ 令和 3 年 3 月 6 日
事業の概要	<p>1. ガーデンファームの管理</p> <p>Garden farm life of Azumino の会員が、年間を通じて自作の庭畑をそれぞれで管理し、市民の健康推進と近隣住民との交流を促進する。</p> <p>2. 「安曇野ゴラウンドガーデン」の管理支援</p> <p>『第 36 回全国都市緑化信州フェア』の際に三郷文化公園内に作った円形花壇、メリー・ゴラウンド・ガーデンは、フェア終了後も市民ボランティアの力を借り、継続して管理をしている。</p> <p>Garden farm life of Azumino の会員は、他のボランティアの方々と一緒に、定期的に活動に参加し、「安曇野ゴラウンドガーデン」の管理やボランティア同士の交流を支援する。</p> <p>3. ガイドブックの作成・頒布</p> <p>Garden farm life of Azumino の会員が手掛けるガーデンファームを紹介する、ガーデンファームライフガイドブック（次ページ参照）を協働で作成し、市内施設</p>		

や市内外の方々に頒布する。



Garden
Farm Life
of Azumino
—安曇野の花庭・せせがね—



安曇野
ガーデンファームライフ
ガイドブック 2020



ガーデンファームライフガイドブック

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	ガイドブックの編集および頒布
	相手側	ガーデンファームの管理、近隣住民との交流促進、安曇野ゴージャンドガーデンの管理支援、ガイドブックに関わる取材・素材提供・レイアウトの作成
	市側	ボランティア活動の作業日などの広報、ガイドブックの印刷製本

【実施結果】

成果目標の達成状況	事業それぞれの成果目標は十分に達成できた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	花緑に触れる機会を協働で増やし、緑化活動の輪を広げる

事業概要紹介シート⑬

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市ミュージアム活性化事業
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市ミュージアム活性化事業
	市側	教育 部 文化 課 文化振興 担当



（説明）あづみの学校ミュージアムの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	公立館と私立館が協働して事業を行う		
事業の目的	市内に点在する美術館・博物館が連携し事業を行なうことで、地域文化振興の核としての役割を果たすこと、また安曇野市としての一体感の醸成に寄与すること		
成果目標	今年度計画した9つの事業の実施		
実施場所	市内各館	事業期間	R2年4月1日～R3年3月31日
事業の概要	(1) 作品鑑賞会 (2) 安曇野ミュージアムギャラリートークリレー2020 (3) あづみの学校ミュージアム事業 (4) 出前展覧会事業 (5) 美術館博物館職員等研修会事業 (6) 信州大学連携 (7) スクールプログラム (8) ミュージアムサポーター (9) 『安曇野市ミュージアム活性化事業実行委員会 10年のあゆみ』冊子作製		

【協働の役割分担】

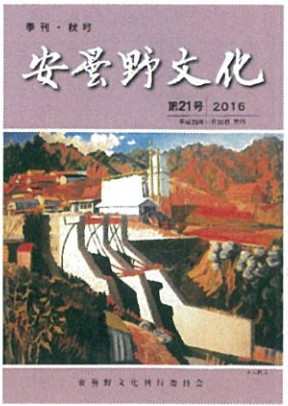
役割 分担	一緒の取組	実行委員会、専門部会
	相手側	実行委員会、専門部会
	市側	事務局、専門部会

【実施結果】

成果目標の達成状況	実施済み。（「出前展覧会」のみ感染症の影響により中止）
協働による効果	公私館の連携をとりやすい。小中学校への参加を促しやすい
課題・改善点	各館で事業に対する温度差がある。

事業概要紹介シート⑭

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野文化刊行事業		
協働の形態		4. その他（刊行委員会 市は事務局を担当）		
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興担当		

（説明）安曇野文化第 21 号表紙

【事業の概要】

取組の背景・課題	前身の「三郷文化」は平成 23 年夏号をもって創刊 30 年を迎えた。同年秋の「安曇野文化」創刊にあわせて安曇野文化刊行委員会、編集委員会を組織し平成 23 年 11 月 30 日に創刊号を発行した。購読者数を増やすこと、執筆者の確保などが課題である。		
事業の目的	安曇野の文化を市民に伝える季刊誌をつくる。また、地域文化を創造し大切にするのが地域の活性化と文化の発展・保存につながるため、季刊誌として残す。		
成果目標	年 4 回の発行		
実施場所	貞享義民記念館（編集室）	事業期間	R2. 4. 1～R3. 3. 31
事業の概要	「安曇野文化」年 4 回の発刊 刊行委員会は年度当初に開催し、年 4 回の発行に合わせて編集委員会を開催する。編集委員会は執筆者の選定から各号を購読者に届けるまでの実務を行う。購読料と安曇野市からの補助金により事業を行う。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	刊行委員会、編集委員会の開催
	相手側	各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布
	市側	事務局を担当

【実施結果】

成果目標の達成状況	全体の購読者数はゆるやかに減少している。
協働による効果	協働により市内小中学校や認定こども園等の協力を得やすい。
課題・改善点	購読者増、執筆者の新規開拓

令和3年3月12日発行

発行元：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進係（本庁舎2階4番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176